日自粛中のボランティアさんに電話すると、「孤立してました！利用者さんたちの顔を思い浮かべていたのよ」。一日も早くボランティアさんと利用者の明るい声を聞きたい！　（三輪絵美子）

◆ケアプランえん◆

緊急事態宣言が解除されたが、何もかもが元通りとは言い難い日々が続いている。手指や電話、パソコン、デスク周りの消毒、マスク、フェイスシールド着用は常態化し、リモートワークも継続し、６人のケアマネが全員集合するのは、毎週月曜日の会議１時間程度。モニタリング訪問は極力短時間を心掛け、担当者会議は密にならない場所での開催や、招集事業所を少なくするなどして対応している。施設によっては、未だに面会や見学ができない所もある。まだまだ感染に対しての不安は消えない。

そんな中、なんとも奇妙な特例が出て、頭を抱えていたら、「すぐやるＮＰＯえん」は、さっそく国会に要請行動に出かけた。その経過は次に。

（松縄和代）

～奇妙な特例措置、撤回を求めて国会へ～

先日、えん入職１年目に大変貴重な体験をさせて頂きました。

今回のコロナ禍で最も大きな減収となっている通所系や短期入所系サービスに対し特例措置が出されました。カンタンに言うなら、利用者の同意を得られたら、デイサービスの場合は利用時間より２時間プラスした報酬にしてよいというもの。コロナの影響で経営難の事業所側には減収補填はのどから手が出るほど欲しい。でも利用していない分を利用者に負担させるのは理不尽、介護保険でなくコロナ対策の費用で対応してほしい。百歩譲っても利用者負担はなしにしないと、信頼関係で成り立つ利用者との関係、連携が最重視される事業所間に亀裂が入ります。この危機的状況を訴えるべく、衆議院第一議員会館で行われた緊急要請に、小島代表とケアプランえん管理者の内堀と共に私も参加したのです。

それはよく見るテレビの光景でした。要請内容に対する厚生労働省の回答は、「この措置は減収補てんではなく、感染対策に要した時間を介護報酬上評価した。利用者にもメリットがある」。ビックリです。介護家族は声を震わせ「メリットがあるとは！納得いかないから同意できないと言ったら、長年かけた事業所との信頼関係が崩れる」と。この方は限度額を超えて利用しているので１０割負担で１回あたり２０００円は増えます。ケアマネは「訪問介護との時間帯が重なってしまい、返戻覚悟で実績を計上した。利用者は理解の上で同意しているか疑わしい」と現場が抱える問題を指摘。経験が浅い私でも、そのやり取りに深く